

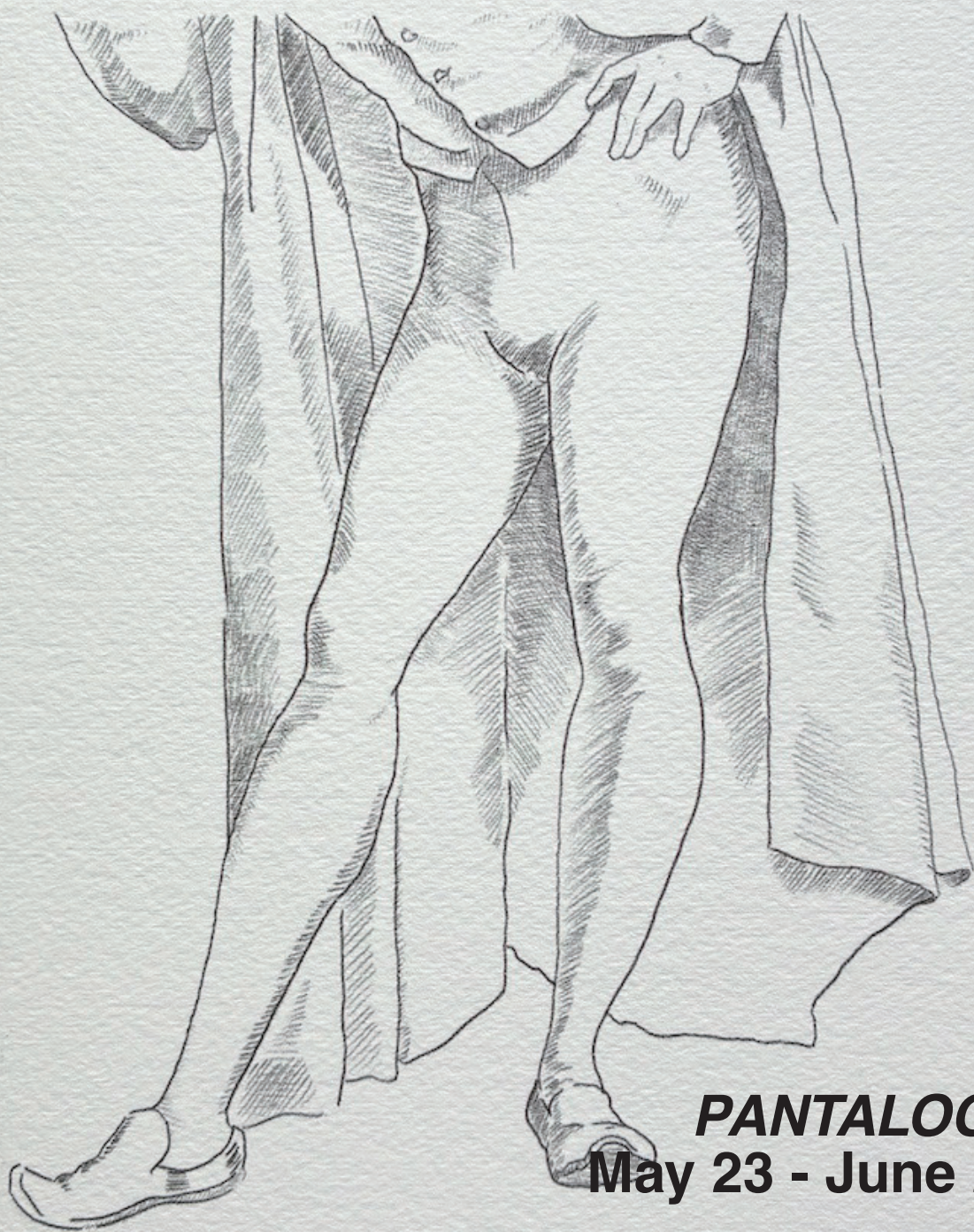
KAYOKOYUKI

Piramide Bldg. 2F, 6-6-9 Roppongi, Minato-ku, Tokyo 106-0032

MAIL: info@kayokoyuki.com / TEL: +81(0)3-6873-6306

www.kayokoyuki.com

諏訪 未知
Michi Suwa



PANTALOON
May 23 - June 27

Opening Reception:
May 23, 17:00-19:00

Michi Suwa**諏訪 未知****PANTALOON**

2026.5.23 (土) - 6.27 (土)

Opening Reception : 5.23 (土) 17:00-19:00

Talk Show : 6.27 (土) 14:00-15:30 諏訪 未知、平倉 圭 (芸術理論家)

この度KAYOKOYUKIでは、諏訪 未知 (すわ・みち) の個展「PANTALOON」を開催いたします。

諏訪未知は、身の回りで起こる現象や自身の身体感覚に根ざし、私たちが当然のものとして受け入れている世界の成り立ちに小さな亀裂を見出すような作品を制作してきました。正方形の画面には、抑制された色面と幾何学的でありながら手触りの残る図が配置され、重力や遠近感といった前提をわずかに揺るがせます。そこでは、私たちが知識として理解している世界と身体を通して感じている世界との間に生じるずれが俄かに立ち上がってきます。

諏訪にとってのPANTALOON (ズボン) とは、単なる衣服の名前ではなく、身体と構造との関係をめぐるひとつの思考の装置であると思われます。ここでは、私たちが無意識に従っている身体の習慣や、その身体を受け入れるはずの構造との関係が改めて問い直されています。右から履くのか、左から履くのか。そうした些細な行為のなかに潜む秩序は、身体の側に属するのか、それとも構造の側に属するのか。そのどちらにも帰属しきらないわずかな不均衡が、本展「PANTALOON」の出発点となっています。

本展において諏訪は、このような身体と構造の不均衡を、図像としてのズボンを描くのではなく、絵画が成立する条件そのものへと展開しています。正方形のフォーマット、細い縞模様と放物線との交錯、画面からわずかにせり出した板、あるいは床との距離や位置関係。それらは、絵画がどのように支えられ、どのようにそこに留まっているのかを問い直すための要素として配置され、見る者の身体感覚に直接働きかけます。

諏訪の作品に向き合うとき、私たちはもはや「何が描かれているのか」という問いだけでは立ち止まることができません。立って見ているという自身の身体の状態や下方向へと引かれる重力、重心の位置、そして画面に生じるわずかな違和感へと意識が向けられていきます。そこでは、構造の側と身体の側、どちらが正しくどちらがずれているのか、それともどちらとも正しくどちらともずれているのか。その判断は宙吊りにされたまま、両者は交換可能なものとして揺れ動き続けます。諏訪の作品は、そうした両者の不安定な関係のなかで、絵画が立ち上がる瞬間を捉えようとする試みであるといえるでしょう。

本展「PANTALOON」は、絵画をひとつの完成された像として提示するものではなく、その成立を支えるあらゆる事物との関係の網の目を丁寧に掬い取ろうとする試みです。鑑賞者は、足元に生じる小さな、しかし深い穴に導かれるようにして、自分自身の身体と絵画との間に現れた不確かな領域へと足を踏み入れることになるでしょう。

なお本展は、自由が丘のgallery21yo-jで開催される「pantaloone」(5/30-6/21)と緩やかに連関しています。本展の空間において際立つ構造の立ち上がり方は、別の場所において、より身体に近く重心が引き寄せられています。是非、本展と併せてご覧ください。

PANTALOON/pantaloon

長い部分

しばしば正方形のフォーマットで制作するのは、重心が定まるのを避けるためだ。身体の慣習的な都合のために制度化された機能や秩序など、偶然に過ぎないと考えることが芸術の初手だとすれば、正方形はその疑いの構えを宙吊りにするための構造である。構造が抑圧として働かないはずはない。その事実もまた、宙吊りの構造に含まれると考えると、正方形は落下までの時間を先延ばし、しがみついたための梯子となる。身体と構造のどちらにも不均衡の可能性は交換可能なものとして残される。ただ世界の側に擬態する言葉が必要になる。表象に抗する不条理で幸福な言葉の引力が。自然的な態度の否定の先で、言葉が過酷な運命を辿っている様を目撃するのはあまりにも容易い。それでも言葉に見放されたと思わないでいられるのは、その運命を知りながらなお書き続けた作家たちの静かな持久に負っている。心からの敬意を--。形態は落ちるために止まり、留めるために動く。従順ではない言葉がユーモアを運び、像は摩擦を起こし両立せず、盲点が生じる。足元に穴が開き、再びしがみつく。その繰り返し。

短い部分

右から履くと長すぎる。

左から履くと短すぎる。

2025年11月

諏訪未知



諏訪 未知 (すわ・みち)

1980年神奈川県生まれ、在住。多摩美術大学絵画学科油画専攻卒業後、2005年に同大学大学院美術研究科絵画専攻油画研究領域修了。

主な展覧会に、個展「PANTALOON」KAYOKOYUKI (東京、2026)、個展「pantaloon」Gallery21yo-j (東京、2026)、「Elsewhen, Elsewhere」Art Intelligence Global (香港、2025)、「Blooming show by KAYOKOYUKI」OIL by 美術手帖ギャラリー (東京、2025)、個展「Floor Plan」Galleria Finarte (愛知、2024)、個展「project N 86」東京オペラシティアートギャラリー (東京、2022)、「Letters, Lights, Travels on the Street (Bokura ga tabi ni deru riyuu) Curated by Jeffrey Rosen」NOWHERE (ニューヨーク、2022)、「温泉大作戦」KAYOKOYUKI (東京、2022)、「ヘリオトロープ」照恩寺 (東京、2022)、個展「風の回転、水の落下」アズマテイプロジェクト (神奈川、2020)、「VOCA展2020 現代美術の展望」上野の森美術館 (東京、2020)、「TAMAVIVANTii2018 Dissémination—散種」多摩美術大学アートテーク (東京、2018)、「絵画の現在」府中市美術館 (東京、2018)、「仮設と星屑」A-things (東京、2016)、「行為の触覚 反復の思考」上野の森美術館 (東京、2011) など。

<https://michisuwa.jp/>



Card 2026
oil on canvas, 65.2 x 65.2 cm

Interval 2026
oil on canvas, 27.3 x 27.3 cm



PIN 2026
oil on canvas, 91x 91 cm

Retreat 2026
oil on canvas, 27.3 x 27.3 cm



葉裏 (4つ) / *Underside of Leaf-four* 2025
oil on canvas, 65.2 x 65.2 cm

葉裏 (3つ) / *Underside of Leaf-three* 2025
oil on canvas, 45.5 x 65.2 cm



諏訪未知

<http://michisuwa.jp/>

1980 神奈川県生まれ

2005 多摩美術大学大学院美術研究科絵画専攻 修了

個展

2026 〈PANTALOON〉 KAYOKOYUKI (東京)

〈pantaloan〉 gallery 21yo-j (東京)

2024 〈Knife Rest〉 Gallery21yo-j (東京)

〈Floor Plan〉 ガレリア フィナルテ (愛知)

2022 〈project N 86〉 東京オペラシティーアートギャラリー (東京)

2021 〈Solid Objects〉 gallery 21yo-j (東京)

〈Michi SUWA exhibition〉 ガレリア フィナルテ (愛知)

2020 〈3つの世界〉 KAYOKOYUKI (東京)

〈風の回転、水の落下〉 アズマティプロジェクト (神奈川)

2019 〈island〉 gallery 21yo-j (東京)

2016 〈interior〉 gallery 21yo-j (東京)

2015 〈ドローイング／interior〉 A-things (東京)

2013 〈bottle と 腰掛け〉 A-things (東京)

2011 〈個展〉 A-things (東京)

2009 〈個展〉 A-things (東京)

2008 〈新世代への視点 2008〉 ギャラリー 21+葉 (東京)

2006 〈個展〉 ギャラリー 21+葉 (東京)

2005 〈個展〉 ギャラリー 21+葉 (東京)

2003 〈個展〉 ギャラリー 汲美 (東京)

主なグループ展

2025 〈ニュースペース・プレビュー〉 KAYOKOYUKI (東京)

〈松屋銀座 100 周年 つながる記憶、つづく未来〉 松屋銀座 (東京)

〈Elsewhen, Elsewhere〉 Art Intelligence Global (香港)

〈Blooming show by KAYOKOYUKI〉 OIL by 美術手帖ギャラリー (東京)

2024 〈CADAN x ISETAN ART GALLERY -MY DISCOVERY〉 伊勢丹新宿店アートギャラリー (東京)

2022 〈温泉大作戦〉 KAYOKOYUKI (東京)

〈Letters, Lights, Travels on the Street (Bokura ga tabi ni deru riyuu) Curated by Jeffrey Rosen〉

NOWHERE (ニューヨーク)

〈ヘリオトロープ〉 照恩寺 (東京)

- 2020 〈VIVIDOR -人生を謳歌する人〉 アズマティプロジェクト（神奈川）
〈VOCA 展 2020 -新しい平面の作家達〉 上野の森美術館（東京）
- 2018 〈TAMAVIVANT ii Dissémination -散種〉 多摩美術大学アートテーク（東京）
〈絵画の現在〉 府中市美術館（東京）
- 2017 〈The Abstract〉 TANA studio（神奈川）
- 2016 〈仮設と星屑〉 A-things（東京）
- 2012 〈行為の触覚 反復の思考〉 上野の森美術館（東京）
- 2011 〈Remisen Retrospective〉 ガレリアフィナルテ（名古屋）
- 2010 〈暗月 2〉 TOKI Art Space（東京）
- 2008 〈暗月 a dark moon〉 現代 HEIGHTS Gallery Den（東京）
- 2007 〈インターナショナルワークショップ〉 レミゼン・ブランデ（デンマーク）